

アジアの平和と日中国交回復

敗戦後も日本政府は侵略を謝罪するどころか中国敵視政策を続けていきましたが、1954年の国慶節に、国際民主婦人連盟の招きで高田なほ子さんから12人が訪中した時から女性の友好交流は始まりました。



1966年には田中寿美子議長ら10人が訪中し、それ以来中華婦女連合会との友好交流がすすめられ、田中寿美子、浅沼享子、山川菊栄、石垣綾子、佐多稲子、久布白落美、杉村春子さんなどの呼びかけで、「日中国交回復と友好をすすめる婦人連絡会」を結成、政府への要請活動を続け、1972年に国交が回復しました。その後も、30余の女性団体で中国の婦人代表団を歓迎するなどの交流を続け、日中友好、アジアの平和を目指してきました。



2003年には婦女連合会の主席彭珮雲（ホウ・ハイウン）さんを団長とする10名の代表団を迎え、「日中平和友好条約25周年・日中女性の集い」を開催しました。



2002年には「日中国交正常化30周年、世紀の約束—日中女性北京の集い」が開かれ、日本婦人会議は155名の「平和の架け橋女性訪中団」を組織して参加しました。